

「使徒会議の決議を報告する」

2016年06月29日

使徒言行録 15章 30節～35節。さて、彼ら一同は見送りを受けて出発し、アンティオキアに到着すると、信者全体を集めて手紙を手渡した。彼らはそれを読み、励ましに満ちた決定を知って喜んだ。ユダとシラスは預言する者でもあったので、いろいろと話をして兄弟たちを励まし力づけ、しばらくここに滞在した後、兄弟たちから送別の挨拶を受けて見送られ、自分たちを派遣した人々のところへ帰って行った。しかし、パウロとバルナバはアンティオキアにとどまって教え、他の多くの人と一緒に主の言葉の福音を告げ知らせた。

エルサレムの使徒会議において、激論の末、主イエスの福音理解について意見の一致を得て、決議した。その決議を異邦人クリスチャンたちに知らせるために、手紙に認め、エルサレム教会で指導的な立場にいたユダとシラスに託した。二人は、使徒会議で重要な働きをしたパウロとバルナバたちと共に、エルサレム教会の見送りを受けて出発し、アンティオキア教会に到着した。到着するとすぐに、教会員を集め、手紙を朗読した。信者たちはユダヤ教の律法、割礼を強要されないこと、あるままの状態、主イエスの救いに与ることができるとした決議を聞いて励まされ、大きな喜びに満たされた。福音は他の人になることではなく、私自身であることを「よし」とするのである。

使徒会議はキリスト教史上、最初に行われた会議であり、意味深いものであった。これに基づいて、教会は新しい展望が開かれた。教会は福音を信じ、従う群れであるが、時として、福音から離れ人間の作った価値観を優先させ、誤った教えにずり落ちることがある。福音の真理に立ち続けることは容易なことではない。砕かれた思いで、謙虚に、福音の真理を聞き続けることが大事である。福音は、神は主イエスの十字架と復活において、罪を赦し、生きることを絶対的に是認されているということである。人間の作った価値観で「よし悪し」を計るのではなく、あるがままを「よし」としてくださる、この生の絶対的是認を聞くから、同じく是認されている他の人と共に生きようと、共生、共助を生み出していくのである。

「ユダとシラスは預言する者でもあったので」と書かれているが、福音を語る者という意味である。彼らはアンティオキア教会で、福音を語り人々を励まし力づけた。福音は生きることを是認する出来事であるから、聞く者に勇気と力を与え、共に生きることを喜ぶ者となる。アンティオキア教会は新たな喜びと力を得た。

ユダとシラスはしばらく滞在した後、アンティオキア教会の兄弟たちから送別の挨拶を受けて見送られ、自分たちを派遣したエルサレム教会に帰って行ったと書かれている。ところが、ある写本には「しかし、シラスはそこにとどまることにした」と書かれている。それは、後述されているように、しばらくした後、パウロとバルナバが第二宣教旅行に向かう時、パウロはシラスを選び、彼と一緒に出発しているからである。シラスはアンティオキア教会に残り、エルサレム教会に帰ったのはユダだけのようだ。

使徒会議において大きな働きをしたパウロとバルナバはアンティオキア教会に留まり、人々に教え、他の多くの人と一緒に主の言葉の福音を告げ知らせた。福音は常に語り告げられ、人を生きることに向かって立ち上がらせていく。アンティオキア教会は大きく成長し、力をつけて、更に新しい働きへと押し出されていった。教会は聖霊の導きの中で、生きて働いていくのである。